

感染力強い恐れ

南アの流行地域 再生産数高く

世界保健機関(WHO)が26日に新型コロナウイルスで最も警戒レベルが高い「懸念される変異型(VOC)」に分類したオミクロン型は数多くの変異を持つ。現段階で不明なことも多いが、ワクチンが効きにくく、感染力は短時間で世界中に広まったデルタ型より高い

オミクロン型の特徴

変異	全体で50カ所、うち表面のスパイクたんぱく質に32カ所
感染力	デルタ型より強い恐れ。ワクチン接種者の感染リスクも上昇か
毒性	不明
発生場所	アフリカ南部か
WHO見解	「懸念される変異型(VOC)」に分類

WHO、主要メディア報道より作成

WHO「懸念」指定

恐れがある。

感染例が急速に増えている南アフリカ最大都市ヨハネスブルクのあるハウテン州で12日から20日までに採取された77検体のすべてがオミクロン型だった。1人の感染者が何人にうつすかを示す実効再生産数が南ア全体で1.47なのに対し、ハウテン州では1.93と高い。実効再生産数は1より大きいと感染が拡大していることを示し、特に同州で感染者が急増している。

英国やイスラエルなどがいち早く渡航制限を打

ち出したが、WHOが見解を示したこともあり、水際対策を強化する国が相次いだ。ロイター通信によると、ブラジル、スリランカ、タイ、オマーンなどの国々が新たに南アフリカなどからの渡航制限を発表した。インドのモディ首相は27日、「新たな変異ウイルスに手を打つ必要がある」と表明し、渡航制限緩和について見直しを指示した。

オミクロン型は従来の手法でほぼ判別できるもよつた。WHOによると、新型コロナウイルスのP

CR検査では、同ウイルスが持つ3つの遺伝子を狙って検出する方法が一般的な手法の一つだ。

オミクロン型ではうち1つだけが検出されないことがわかっており、変異が影響している可能性がある。逆にこの結果を使って、オミクロン型に感染していると推定することができない。実際に感染しているかどうかは、PCR検査の後、さらに遺伝子配列を読み込むことにより判断できる。

製薬各社は既存ワクチンの効果検証やオミクロン型に対応したワクチンの開発に取り組み始めた。米CNBCによると、米ファイザーと独ビオンテックは既存ワクチンについて調査を始め、2週間以内にオミクロン型に対する効果などのデータを取得できるという。両社は「ワクチンの調整を必要とする変異型かどうか分かるだろう」と述べた。

(福岡幸太郎、越川智瑛、パリール白石透訳)